

2026年3月期 決算経営説明会

2026.5.27

株式会社第一ライフグループ

| スピーカー | 内容 | ページ |
|-------------------------|----------------------|---------------------|
| 常務執行役員グループCFO 西村 泰介 | 2026年3月期総括 | 2 |
| | グループESR | 3 |
| | グループリスクプロファイル | 5 |
| | 新契約業績 | 7 |
| | 株主還元方針 | 8 |
| | キャッシュポジション | 9 |
| | 相対TSR | 10 |
| 代表取締役社長グループCEO 菊田 徹也 | グループEV | 11 |
| | 『2030年度に目指す姿の実現に向けて』 | 15~ |

為替レート

| | 米ドル/円 | ユーロ/円 | 豪ドル/円 |
|----------|---------|---------|---------|
| 2026/3末 | 159.88円 | 183.41円 | 109.68円 |
| 2025/12末 | 156.56円 | 184.33円 | 104.82円 |
| 2025/9末 | 148.88円 | 174.47円 | 97.89円 |
| 2025/6末 | 144.81円 | 169.66円 | 94.50円 |
| 2025/3末 | 149.52円 | 162.08円 | 93.97円 |
| 2024/12末 | 158.18円 | 164.92円 | 98.50円 |
| 2024/9末 | 142.73円 | 159.43円 | 98.73円 |
| 2024/6末 | 161.07円 | 172.33円 | 107.00円 |
| 2024/3末 | 151.41円 | 163.24円 | 98.61円 |

(1) 本資料内においては、内部モデルを用いて算出したESRについて、「ESR」と呼称しています。
 (2) ESRは、経済価値ベースの所要資本に対する経済価値ベースの適格資本の割合を示す指標です。ESRはマネジメントの判断に供することを目的として経済価値ベースの新たなソルベンシー規制(J-ICS)等を参考に算出しています。
 なお、算出にあたっては一部簡易的な計算方法を用いており、計算方法および算出結果の正当性・妥当性について第三者機関等による検証・レビューは受けていません。

01 / 26/3期業績

グループ
修正利益

5,515 億円
(前期比 +25%)

グループ
新契約価値

1,738 億円
(前期比 +1%)

02 / 資本・キャッシュ

27/3期送金見込み
子会社からの
キャッシュ
レミッタンス
(配当送金) 約 6,000 億円

27/3期
株主配当 約 2,606 億円

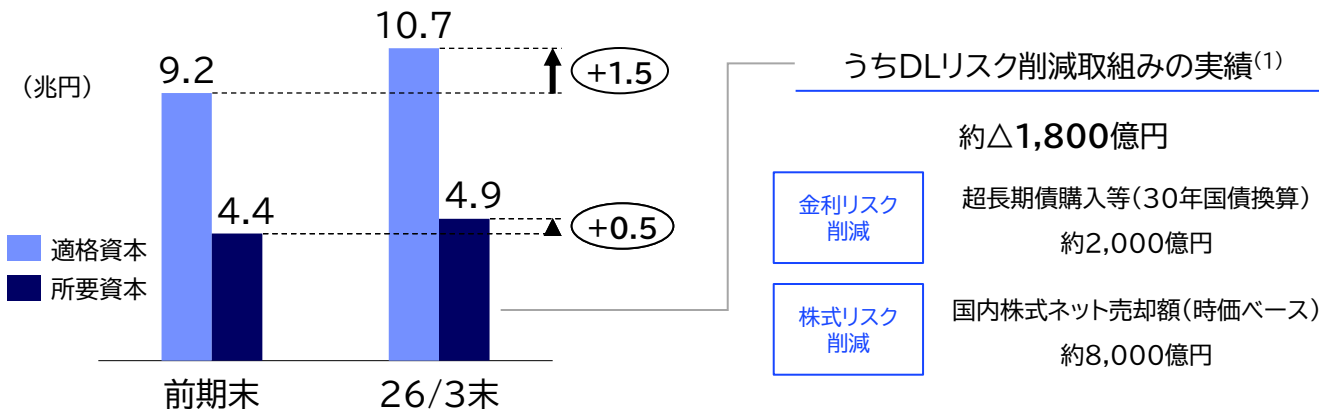
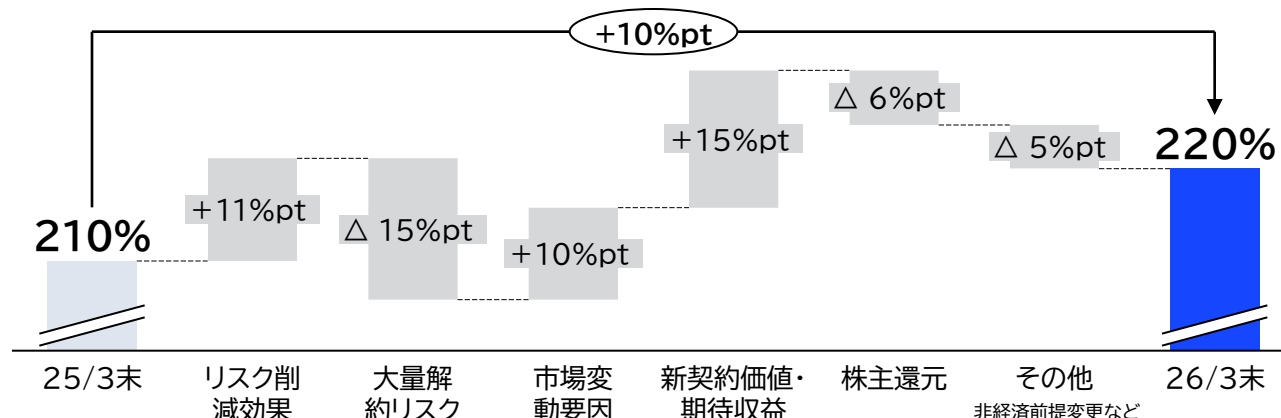
03 / リスク コントロール

26/3末
資本充足率
(ESR) 220%
(前期末比 +10%pt)

04 / 相対TSR

対グローバル競合14社
23/3末~
26/5/15 4位
(騰落率 +195%)

- ▶ 金利上昇に伴う解約リスクの増加を、市場リスク削減による効果で一部相殺したことに加え、国内株式の上昇等の市場変動や新契約価値の獲得、期待収益の認識などにより適格資本が大幅に増加した結果、グループESRは前期末比+10%pt改善し220%



金融市場感応度

| | |
|---------------|-------|
| 2026年3月末ESR | 220% |
| 円金利 +50bps | △4%pt |
| 円金利 △50bps | +4%pt |
| 米ドル金利 +50bps | △1%pt |
| 米ドル金利 △50bps | +0%pt |
| 豪ドル金利 +50bps | △0%pt |
| 豪ドル金利 △50bps | +0%pt |
| 円金利UFR △50bps | △0%pt |
| 株式・不動産 △10% | △5%pt |
| 為替 10%円高 | +0%pt |

(参考) 解約リスクの定義

- 通常解約リスク: 計測モデル上、契約期間にわたって解約率に一定程度のストレスをかけた場合の純資産の減少額(J-ICS準拠)
- 大量解約リスク: 解約率に急激なストレスをかけた場合の純資産の減少額(J-ICS準拠)
- 動的解約リスク: 一時払終身保険等の貯蓄性商品において、市場金利の変動に応じて他の金融商品への乗り換え等により解約率が変動し、損失が発生する等のリスク

(1) 経済環境変動の影響を考慮しない実績

グループESRのターゲット

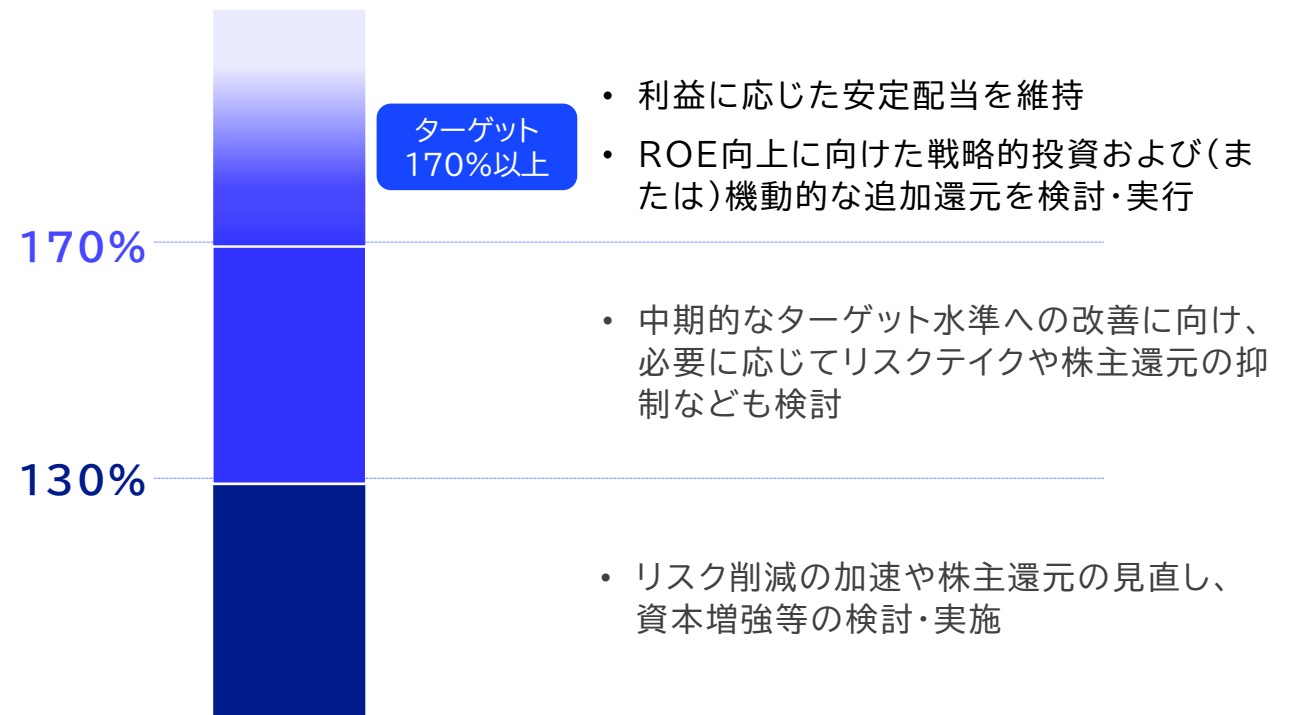
- ▶ 規制モデルのESRを参照しつつも、グループESRを財務健全性指標として位置づけ、ターゲット水準の上限を設定せずに「170%以上」を維持する
- ▶ 資本効率向上に向けた資本政策上の基本的な考え方に変化はなく、引き続きROE向上に向けた規律ある資本配賦を行っていく

グループESRのターゲットについて

170%以上

- グループESRは健全性の指標と位置付け、ESRのターゲット下限は170%とする
- 自己株式取得は、市場環境や戦略投資案件等を総合的に勘案して、機動的に実行
- 利益成長・ROE向上に向け、戦略投資等への資本配賦を目指す当社のキャピタルアロケーションを含めた資本政策の基本的なスタンスに変更はない

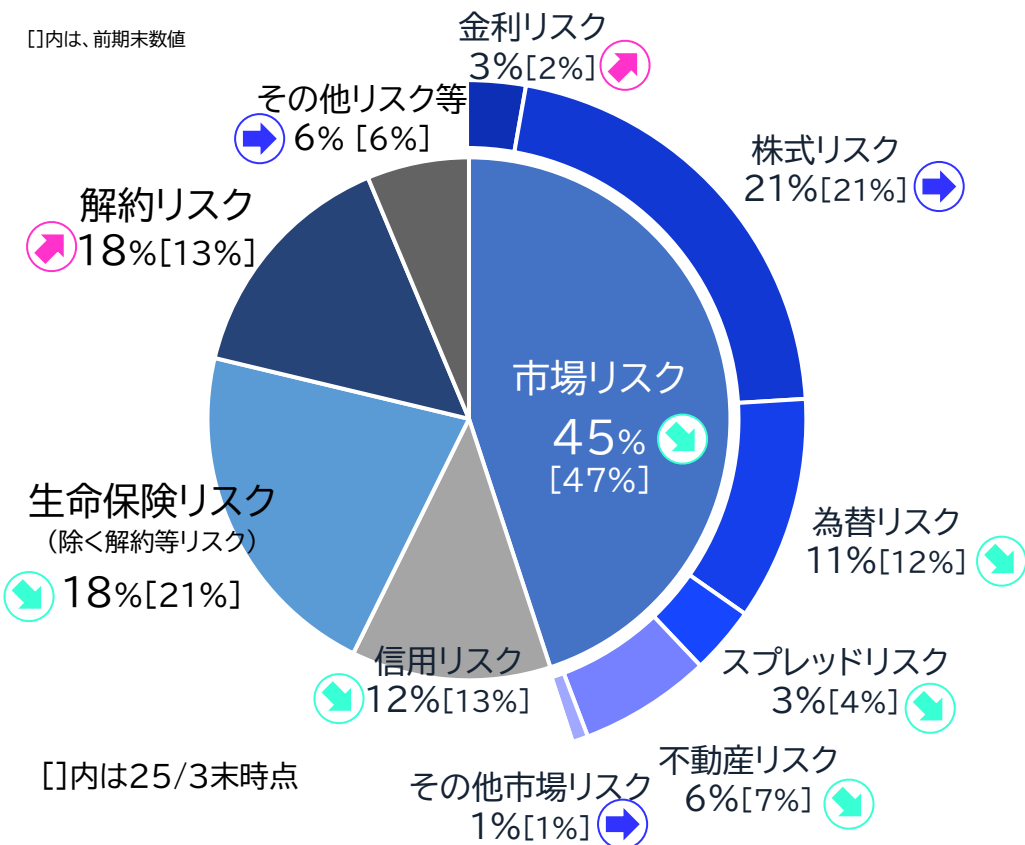
ESR 220%
(2026年3月末)



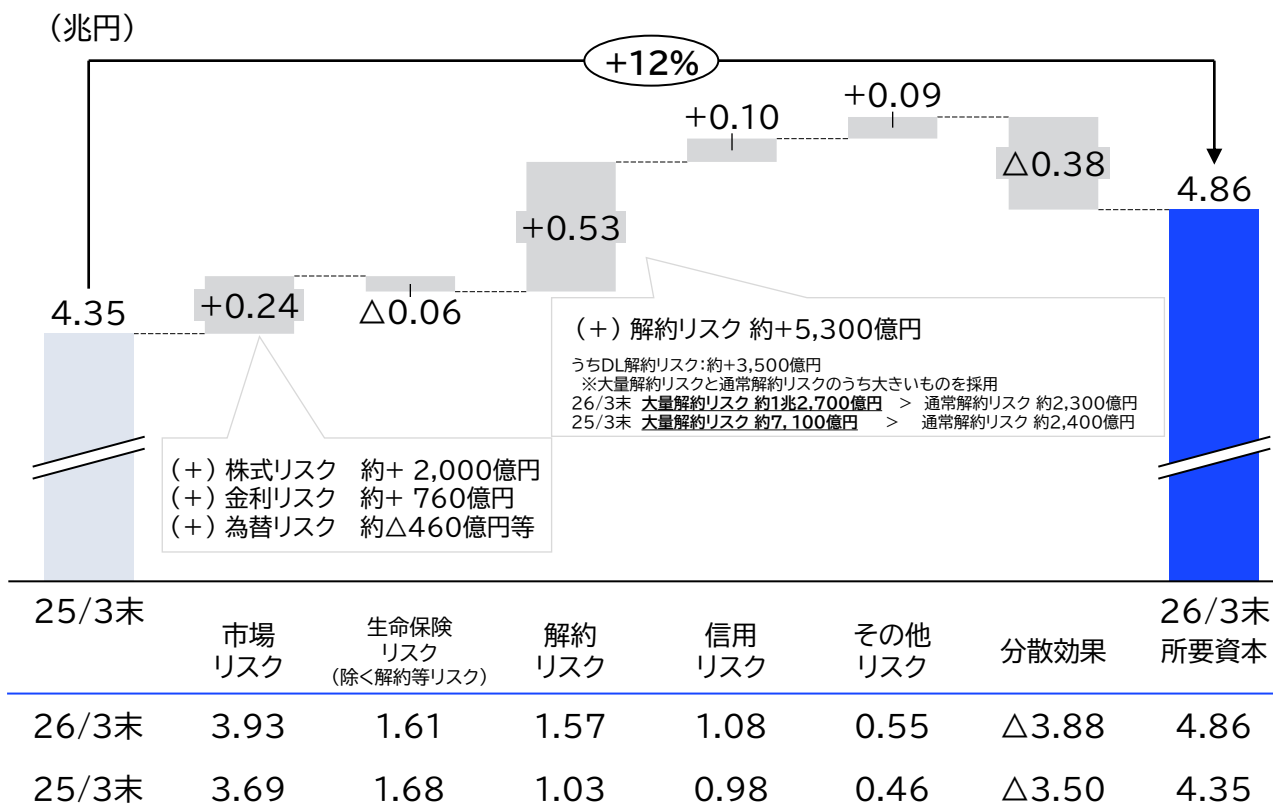
グループリスクプロファイル

- ▶ 国内株式の売却を進めるも、株価上昇の影響によりリスク量全体に占める株式リスクの割合は前期末比で横ばい。また、金利上昇の影響で大量解約リスクは増加
- ▶ 市場リスクや解約リスクの増加により所要資本は増加

所要資本(リスク量)内訳
(26/3末 分散効果考慮前)

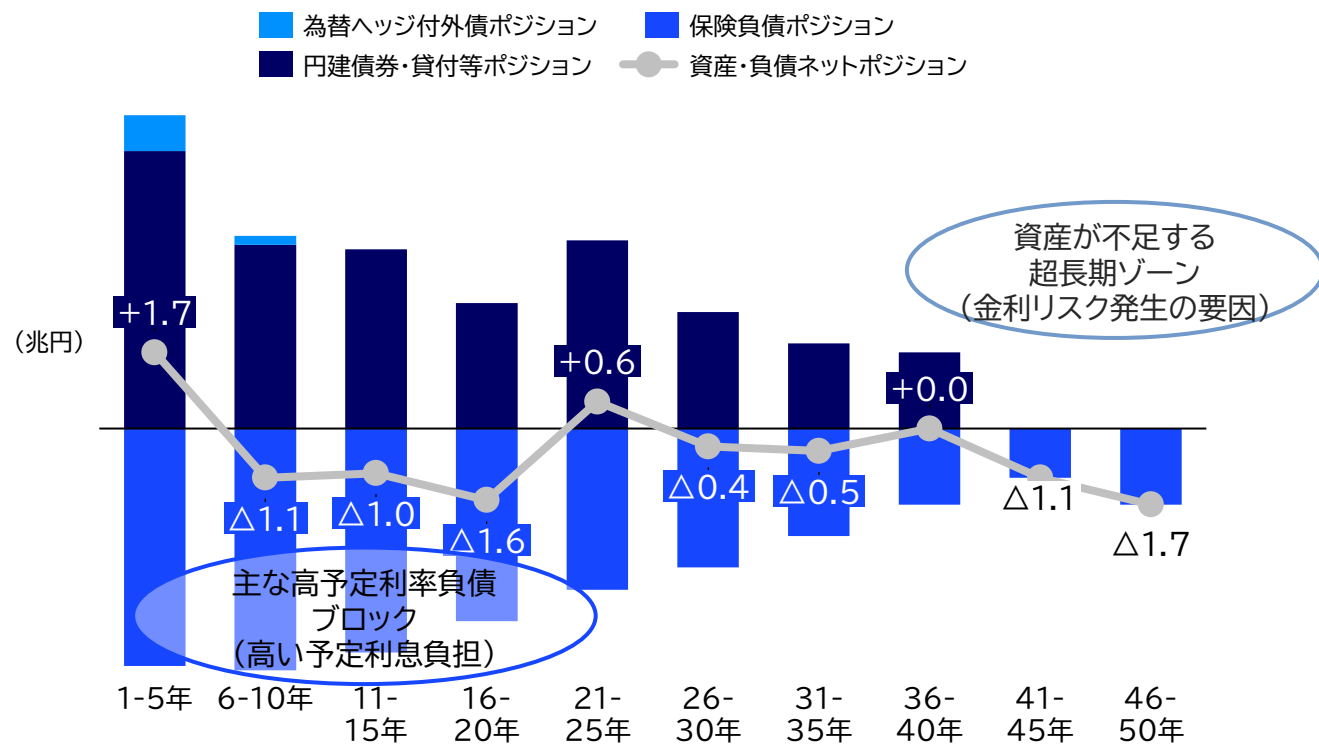


所要資本(リスク量)増減



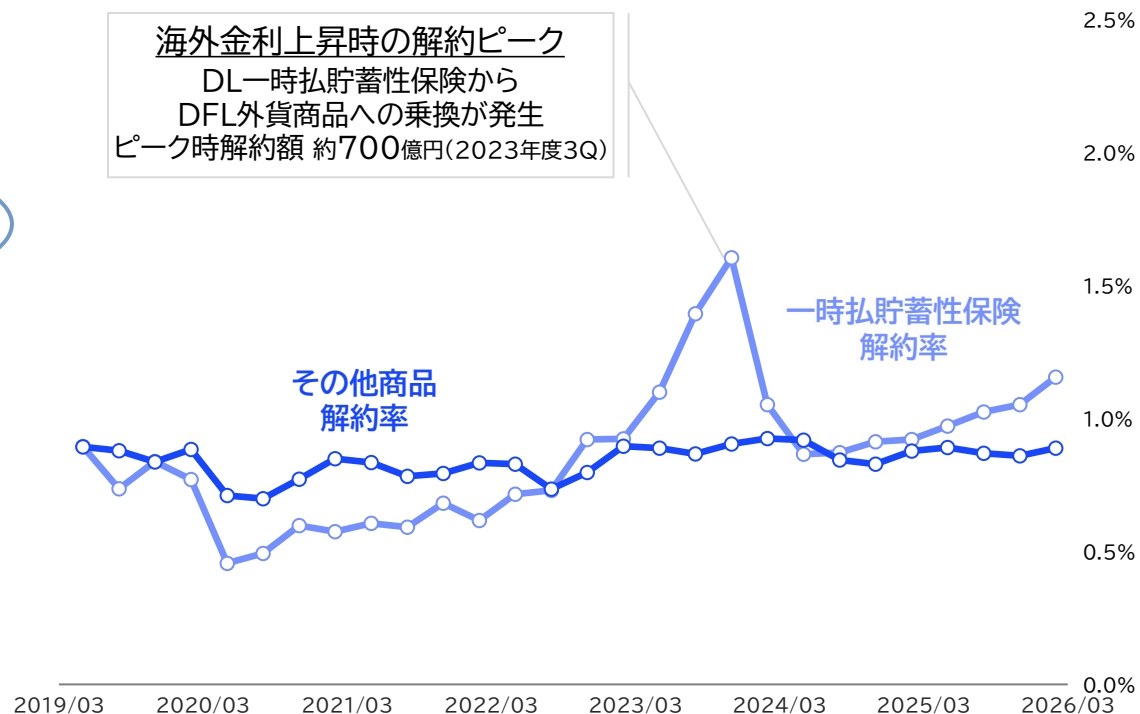
[参考]第一生命の資産・負債キャッシュフロー構造／貯蓄性商品の解約率

第一生命の資産・保険負債のキャッシュフロー構造(5年ごと累計・概算値)



DLの貯蓄性商品における解約率⁽¹⁾の変遷⁽²⁾

IR資料更新
(5/15開示)



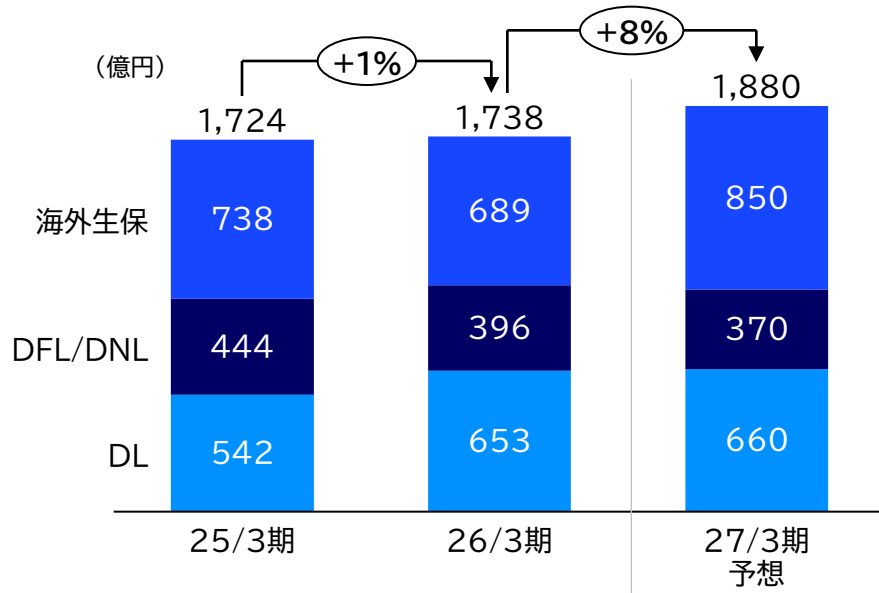
(1) ANPベース。四半期毎実績を各期央にプロット (2) 2026/3末時点

- ▶ 新契約価値は、TALで前年度の大型団保獲得の影響が剥落し減少した一方で、主に金利上昇の影響によりDLで増加し、グループ全体では+1%増の1,738億円
- ▶ 新契約価値の2027年3月期予想は、PLCの販売量増加等で海外事業が増加することを主な要因として、前期比+8%となる1,880億円程度を見込む

グループ新契約価値

26/3期 実績 **1,738**億円 前期比+1%

27/3期 予想 **1,880**億円程度 前期比+8%



国内事業の新契約価値予想の変動要因

[DL] アサンプション変更の影響

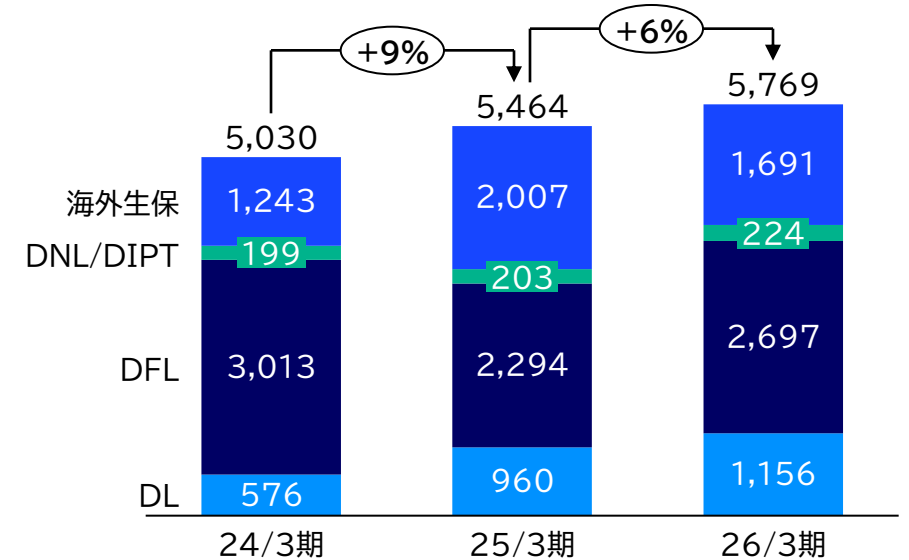
- インフレの影響やAI・デジタル投資に伴うイニシャルコスト増加等に伴う事業費の増加見通しを織り込み
影響額 約△50億円

[DFL] 運用資産変更の影響

- 収益追求のため運用資産を変更した影響等により、計算上反映されない超過収益が増加、新契約マージンが低下
影響額 約△20億円
(超過収益を含めた新契約価値指標では影響はニュートラル)

新契約年換算保険料(ANP)

26/3期 実績 **5,769**億円
前期比+6%(為替調整後+5%)



株主還元方針

※今回の更新箇所は赤字

株主還元方針

利益に応じた
安定配当

[配当性向] 毎期 **50%以上**

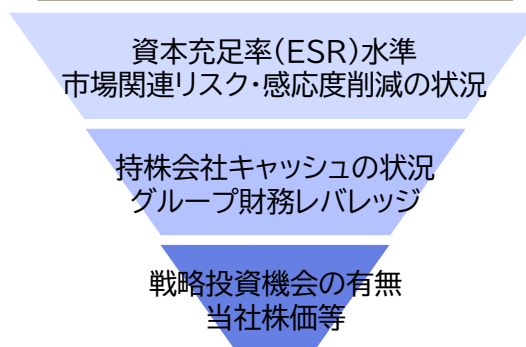
※27/3期中間配当より適用

- グループ修正利益過去3年平均をベース
- 1株あたり配当の減配は原則行わない

機動的な
追加還元

- HDキャッシュ、投資パイプラインの状況、ESR、当社株価等を踏まえて機動的かつ柔軟に判断

追加還元検討における考慮要素



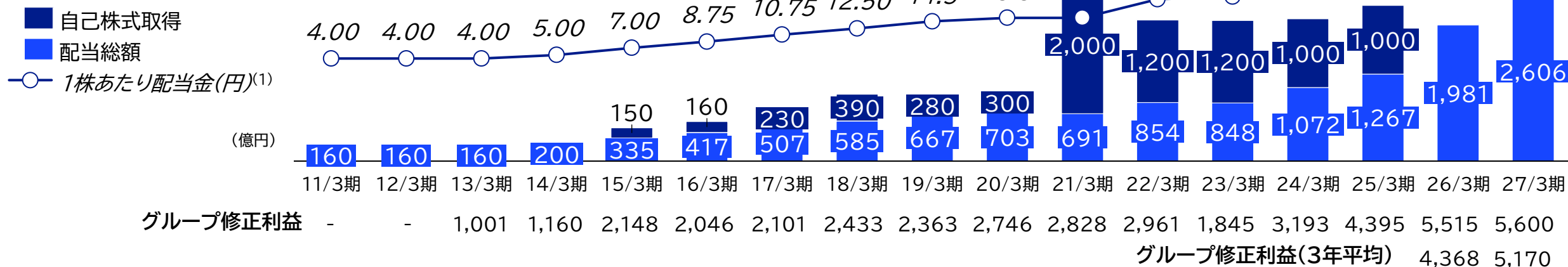
総還元性向に関する目標の廃止

配当性向の目標引き上げに伴い、
総還元性向に係る目標(中期平均50%以上)は廃止

[自己株式消却方針]

用途が見込まれない自己株式は保有しないものとし、
用途が見込まれない自己株式を保有している状態が生じた場合には、適切な時期に自己株式の消却を行います

株主還元の推移



(1) TAL・PNZでは24/3期1QからIFRS17を適用しているが、配当計算上のベースとなるグループ修正利益過去3年平均の算出において、過年度数値の遡及適用は行わない。24/3期以前のグループ修正利益は切り捨て、25/3期以降は四捨五入

(2)数値は、株式分割後の配当金(25/3期以前は、株式分割を考慮した換算額)。

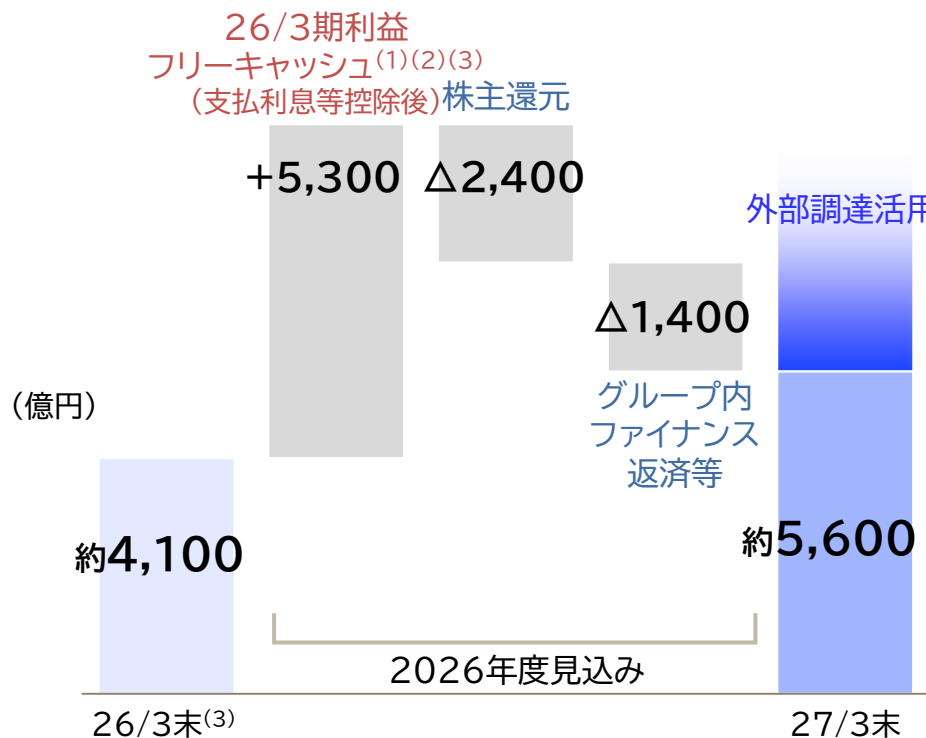
- ▶ グループ修正利益の増益に加え、DFLやTALでは修正利益を上回る配当額を実施した他、DIPTも配当を開始したこと等で、子会社からのレミッタンスは前期比で増加
- ▶ M&Aを含む成長戦略の実現に向けては、追加の外部資金調達も視野

26/3期利益
子会社からのキャッシュレミッタンス
(配当送金)

送金率 約**109%**

| | 送金額 [修正利益] | 送金率 | (前年度) |
|---------------------|-----------------------|-------|-------|
| DL ⁽¹⁾ | 3,779億円 [3,779億円] | 100% | 100% |
| DFL | 930億円 [408億円] | 228% | - % |
| 米PLC ⁽²⁾ | 404億円 [793億円] | 50% | 50% |
| 豪TAL | 562億円 [348億円] | 161% | 133% |
| グループ | 約6,000億円 [5,515億円] | 約109% | 約86% |

HDキャッシュ見通し(2026年度)



成長戦略実現に向けた外部資金調達

2030年度グループ修正利益7,000億円に向けた成長戦略の実現のため、必要に応じて追加の外部資金調達も視野

主な外部資金調達活用手段

社債・ローン(シニア・劣後・構造劣後シニア)、
優先株(社債型)

外部資金調達検討の方向性

- ・ 財務健全性(現行外部格付水準)の維持
- ・ 株式の希薄化は伴わない想定

(1) 子会社からHDへの中間配当金を含む(2) 米PLC等の海外子会社からの送金は、国内子会社同様に持株会社の翌事業年度に入金されたものとして一部組み替え
(3) 各種出金額(事業計画上的の子会社送金・HDコスト等)を含む

相対TSR(2023/3末~2026/5/15)

▶ 2023年3月末を始点としたピア14社⁽¹⁾との相対TSR⁽²⁾は第4位⁽³⁾

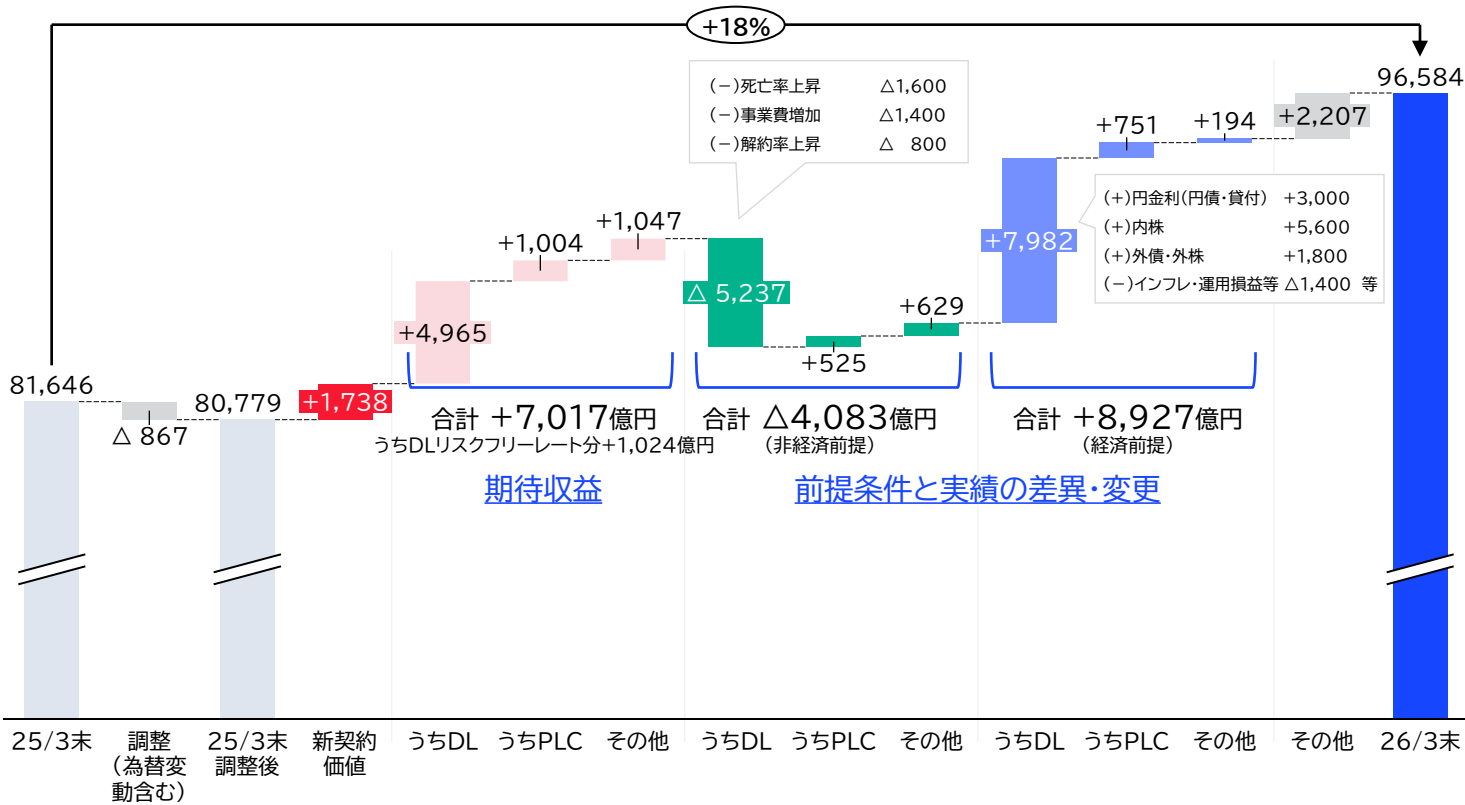


(1) 国内保険グループ5社(かんぽ生命保険・T&DHD・東京海上HD・MS&ADインシュアランスグループHD・SOMPOHD)、海外保険グループ9社(AIA・Aflac・Allianz・AXA・Manulife・MetLife・Prudential(米国)・Prudential(英国)・Zurich)の計14社と比較

(2) TSR(Total Shareholder Return: 株主総利回り) キャピタルゲインと配当を合わせた、株主にとっての総利回り (3) 2026年5月15日時点

- ▶ 新契約獲得に加えて、株価上昇や期待収益の発現により主にDLで上昇し、グループEVは前期末比で大幅増加
- ▶ 経済価値規制導入に伴い、2025年度以降のEVレポートの開示を収束

26/3末 **9兆6,584億円** 前期末比+1兆4,938億円



金融市場変動に対する感応度(変化率)

| | |
|-------------|--------|
| グループEV | 9.7兆円 |
| RFR+50bps | △ 0.3% |
| RFR△50bps | +0.6% |
| 円金利+50bps | +0.3% |
| 円金利△50bps | △ 0.3% |
| 米ドル金利+50bps | △ 0.4% |
| 米ドル金利△50bps | +0.3% |
| 豪ドル金利+50bps | △ 0.2% |
| 豪ドル金利△50bps | +0.2% |
| 株式価値△10% | △ 4.6% |
| 不動産△10% | △ 2.1% |

| | |
|-------------|--------|
| DL単体EV | 6.5兆円 |
| RFR+50bps | △ 0.1% |
| RFR△50bps | +0.1% |
| 円金利+50bps | +0.1% |
| 円金利△50bps | △ 0.1% |
| 米ドル金利+50bps | △ 0.2% |
| 米ドル金利△50bps | +0.2% |
| 豪ドル金利+50bps | △ 0.0% |
| 豪ドル金利△50bps | +0.0% |
| 株式価値△10% | △ 6.1% |
| 不動産△10% | △ 3.1% |

- ▶ グループEVは、DLが保有する国内株式の上昇等で前期末比+1.5兆円増の9.7兆円

Daiichi Lifeグループ

| (億円) | 25/3末 | 26/3末 | 増減 |
|-------------------------|---------------|---------------|----------------|
| Daiichi Lifeグループ | 81,646 | 96,584 | +14,938 |
| 修正純資産相当額 | 17,864 | 15,212 | △2,651 |
| 保有契約価値相当額 | 63,782 | 81,371 | +17,590 |

| (億円) | 25/3期 | 26/3期 | 増減 |
|------------------|--------------|--------------|------------|
| グループ新契約価値 | 1,724 | 1,738 | +14 |
| 新契約マージン | 2.71% | 2.45% | △ 0.26%pt |

グループ各社(国内)のEV

(億円)

| 第一生命 | 25/3末 | 26/3末 | 増減 | 25/3期 | 26/3期 | 増減 |
|-------------------|---------------|---------------|---------------|--------------|--------------|-------------|
| EV | 57,050 | 64,567 | +7,517 | 542 | 653 | +111 |
| 修正純資産相当額 | 18,951 | 13,278 | △5,673 | 3.44% | 3.59% | + 0.15%pt |
| 保有契約価値相当額 | 38,099 | 51,289 | +13,190 | | | |
| (参考) うち個人保険 | | | | 674 | 636 | △ 38 |
| うち団体保険・団体年金 | | | | 172 | 312 | +140 |
| うちMOCE | | | | △ 309 | △ 316 | △ 7 |
| 第一フロンティア生命 | 25/3末 | 26/3末 | 増減 | 25/3期 | 26/3期 | 増減 |
| EV | 8,889 | 10,352 | +1,463 | 396 | 314 | △82 |
| 修正純資産相当額 | 2,441 | 2,292 | △149 | 1.76% | 1.29% | △ 0.47%pt |
| 保有契約価値相当額 | 6,448 | 8,060 | +1,612 | | | |
| 第一ネオ生命 | 25/3末 | 26/3末 | 増減 | 25/3期 | 26/3期 | 増減 |
| EV | 1,671 | 2,005 | +334 | 48 | 81 | +34 |
| 修正純資産相当額 | 168 | 23 | △146 | 3.52% | 5.69% | + 2.16%pt |
| 保有契約価値相当額 | 1,503 | 1,982 | +479 | | | |

グループ各社(海外)のEV

| | (億円) | | |
|---------------|--------------|---------------|---------------|
| 米プロテクティブ | 24/12末 | 25/12末 | 増減 |
| EV | 8,630 | 13,323 | +4,693 |
| 修正純資産 | △ 2,444 | 2,094 | +4,539 |
| 保有契約価値 | 11,074 | 11,228 | +155 |
| ※為替レート(円/米ドル) | 158.18 | 156.56 | |

| | (億円) | | |
|---------------|--------------|--------------|---------------|
| 豪TAL | 25/3末 | 26/3末 | 増減 |
| EV | 6,255 | 7,867 | +1,612 |
| 修正純資産 | 1,786 | 1,594 | △192 |
| 保有契約価値 | 4,469 | 6,273 | +1,804 |
| ※為替レート(円/豪ドル) | 93.97 | 109.68 | |

| | (億円) | | |
|---------------|--------------|--------------|-------------|
| 第一ライフベトナム | 24/12末 | 25/12末 | 増減 |
| EV | 2,531 | 2,028 | △503 |
| 修正純資産 | 1,272 | 825 | △446 |
| 保有契約価値 | 1,260 | 1,203 | △57 |
| ※為替レート(円/越ドン) | 0.0062 | 0.0059 | |

| | (億円) | | |
|---------------|------------|------------|------------|
| | 24/12期 | 25/12期 | 増減 |
| 新契約価値 | 418 | 388 | △31 |
| 新契約マージン | 2.07% | 1.63% | △ 0.43%pt |
| ※為替レート(円/米ドル) | 158.18 | 156.56 | |

| | (億円) | | |
|---------------|-----------|------------|------------|
| | 25/3期 | 26/3期 | 増減 |
| 新契約価値 | 97 | 134 | +38 |
| 新契約マージン | 6.15% | 8.37% | + 2.22%pt |
| ※為替レート(円/豪ドル) | 93.97 | 109.68 | |

| | (億円) | | |
|---------------|------------|------------|------------|
| | 24/12期 | 25/12期 | 増減 |
| 新契約価値 | 200 | 103 | △97 |
| 新契約マージン | 13.64% | 11.67% | △ 1.97%pt |
| ※為替レート(円/越ドン) | 0.0062 | 0.0059 | |

2030年度に目指す姿の実現に向けて



グループ

- ✓ グループ修正利益・修正ROEは、中期経営計画の目標値を大きく上回り、前倒しで達成
- ✓ 配当還元を強化。キャッシュ創出力の向上を背景に、成長加速ステージへ

国内

- ✓ DLの順ざやは大きく拡大。DFLのAUM拡大もあり、国内事業は堅調に推移
- ✓ DLの販売実績は回復基調。AI活用により更なるコスト削減・生産性向上を目指す

海外

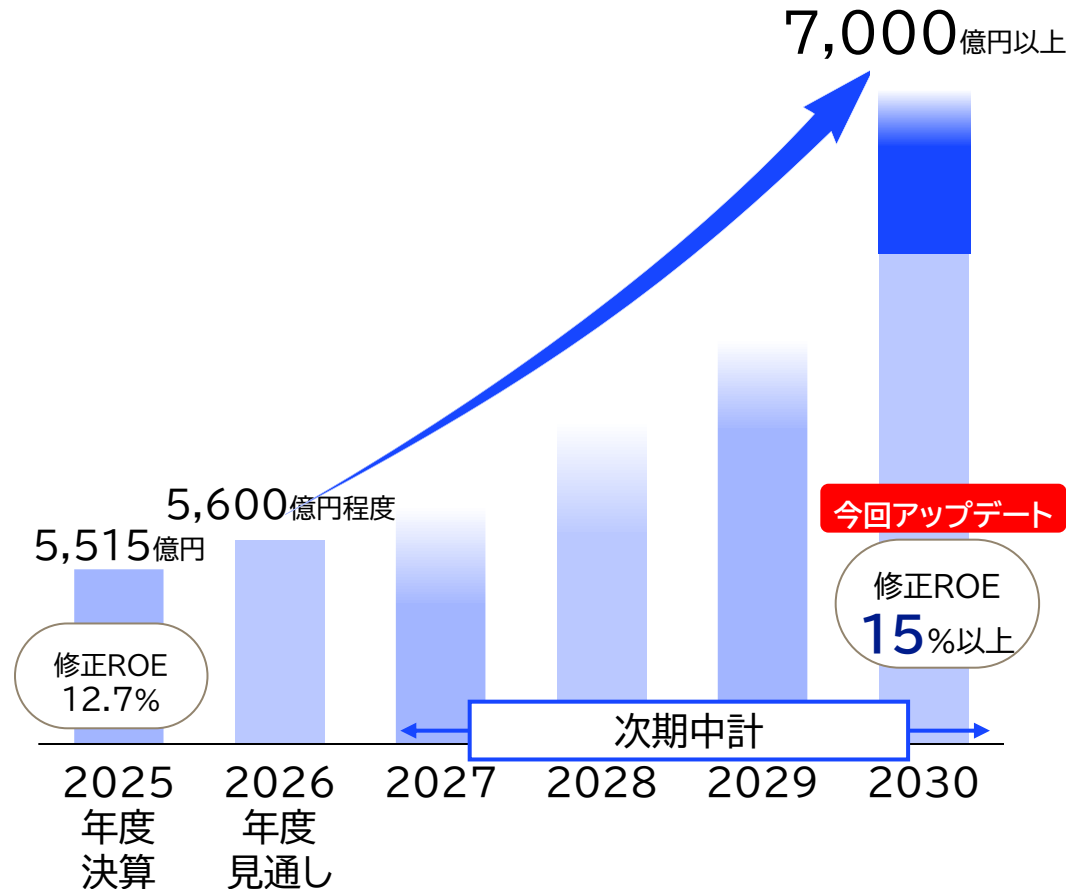
- ✓ 米PLCが海外事業の利益を牽引
- ✓ 戦略投資は、資本効率を意識したキャピタルライトな案件が進捗

非保険

- ✓ キャッシュ創出力の高いアセットマネジメント分野の利益貢献が拡大
- ✓ ベネフィット・ワンがボルトオン案件、提携等によりお客さま基盤を拡大

グループ修正利益は順調に拡大、資本効率是中長期目標を引き上げ

- ▶ グループ修正利益・修正ROEの中計目標は前倒しで達成し、キャッシュ創出力は中計開始時点から大きく拡大
- ▶ 修正ROE目標を「15%以上」に引き上げ、2030年度の目指す姿の実現に向け、次期中計での成長加速に向けた戦略投資を推進する



株価水準や潜在投資案件の状況により、機動的・柔軟な株主還元も想定

持続的な利益創出能力の拡大に向けて

- ▶ 当社グループの持続的な利益創出能力を表す指標としてグループコア利益を設定し、次期中計以降は、グループ修正利益と並ぶ主要指標として位置付ける想定
- ▶ グループコア利益は、グループ修正利益からキャピタル損益等を除いた、当社グループの持続的な利益創出能力を表す指標。既存事業のオーガニック成長に加え、2030年度まで予定しているDLの株式売却益を活用した国内事業の順ざや拡大等を通じて、早期にグループ修正利益に比する水準を目指す

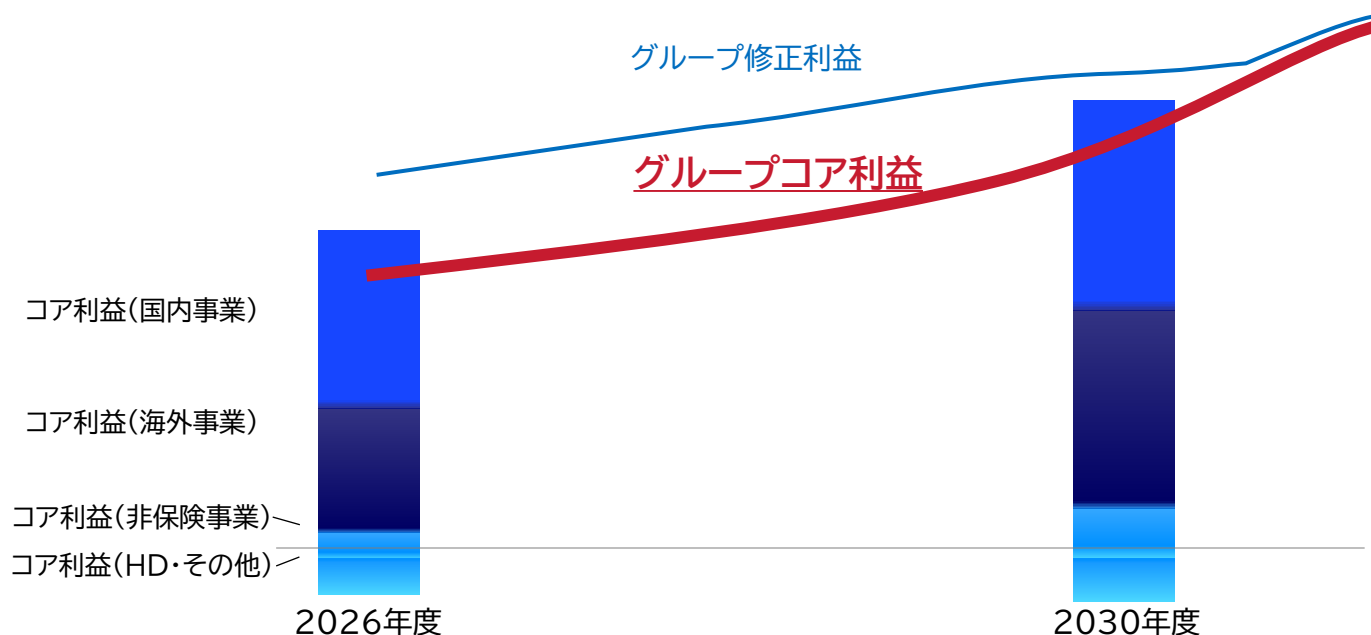
グループコア利益の計算

グループ修正利益 $-$ キャピタル損益等



一過性要因を除いた
持続的な利益創出能力を表す

グループ修正利益とグループコア利益の見通し(イメージ)



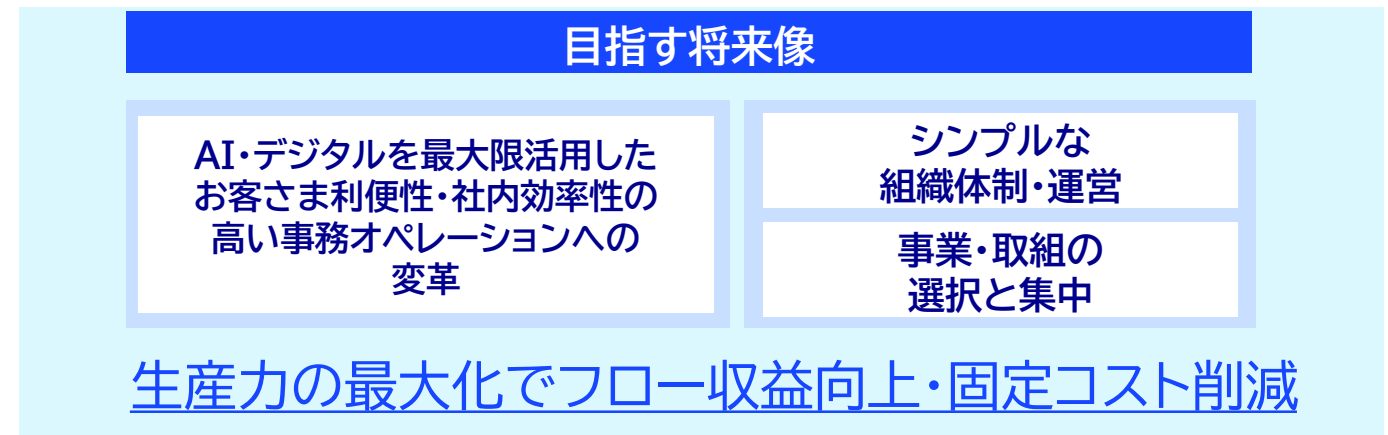
DLの事業効率向上に向けた取り組み

- ▶ 保有契約の減少やインフレ環境を踏まえ、DLは今後5年間で約1,000億円規模のIT追加投資を実施し、AI・デジタルを活用したオペレーショナル・エクセレンスを推進。これにより、お客さま利便性を飛躍的に向上させるとともに、生産性の抜本改善を通じて競争優位な事業基盤を確立する
- ▶ なお、2030年度時点でDLに求めるユニットコスト率を設定することで、経済環境変化や新契約獲得状況の変化に対応する持続的なROE水準の実現を目指す

現状の課題

- | | | |
|-------------|---|--|
| 分子 (コスト) | ↑ | <ul style="list-style-type: none"> 継続的なインフレ圧力 人的資本投資等の成長投資 |
| ➡ | | |
| 分母 (収入) | ↓ | <ul style="list-style-type: none"> 将来的な国内生保市場の縮小 保有契約の減少トレンド |

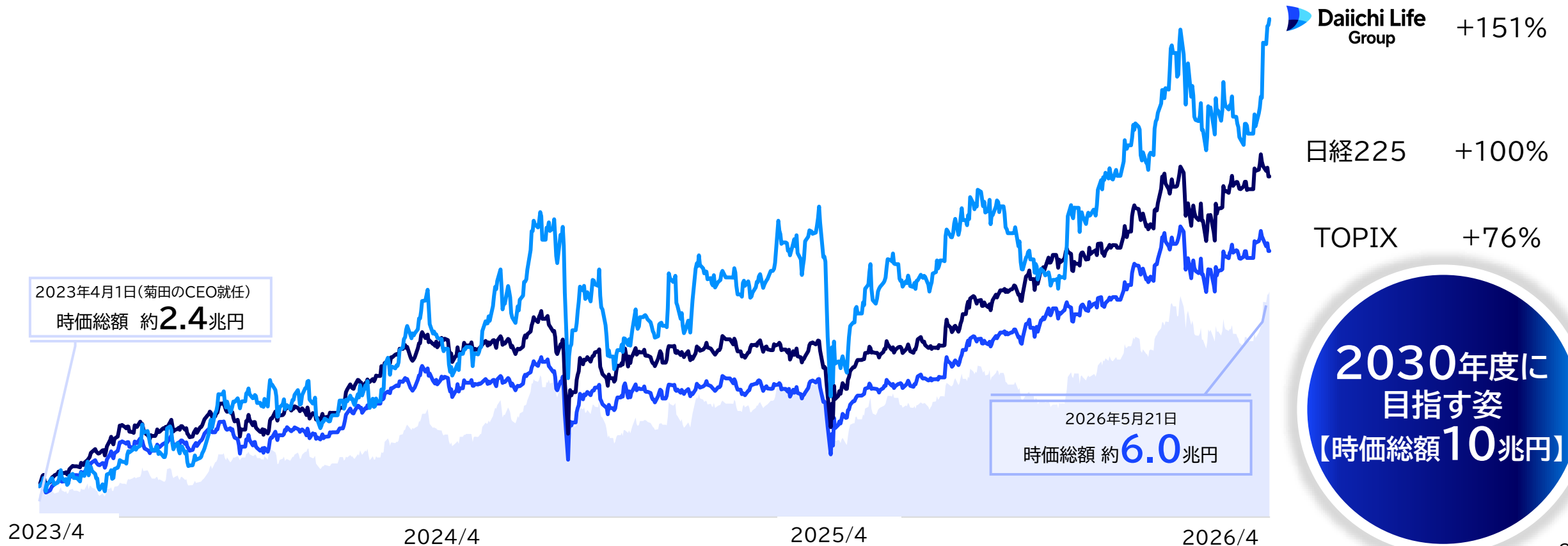
生産力向上取組(ユニットコスト運営)



(1) ランニングコストとのネット効果 (2) 2025年度時点のコストにインフレや現時点で見込まれる事業費増減を織り込んだ想定に対する割合

時価総額は6兆円を突破 歩みを止めず企業価値向上を更に加速させて、時価総額10兆円を目指す

- ▶ 国内金利の上昇等の追い風を捉え、着実な利益成長と資本効率改善によってTOPIXを上回る企業価値向上を実現し、時価総額は当初目標から約1年前倒しで6兆円に到達
- ▶ 成長志向を高めつつ、変革を続け、「2030年度に目指す姿」の実現に向けて進化



KPIターゲット

▶ グループ修正利益・修正ROEについては、中計開始当初の目標を前倒し達成。次期中計における更なる企業価値向上、2030年度に目指す姿である時価総額10兆円の達成に向けた「ギャップ」を埋めるべく、各事業戦略の進捗状況や足元の経済環境等を踏まえたアップデートを実施

| | KPI項目 | 2025年度 実績 | 中期経営計画目標 (2026年度) | 2030年度を目途として 目指す水準 | |
|-------|-------|----------------|---|---------------------------------|-----------------------------------|
| 財務指標 | 経済指標 | RoEV | 20.7% | 中長期的に8%程度 | |
| | | 新契約価値 | 1,738億円 | 2026年度:1,880億円程度 | — |
| | 会計利益 | 修正ROE | 12.7% | 10% → 12%以上 | 安定的に10%を超える水準 → 15%以上 |
| | | 修正利益 | 5,515億円 | 4,500億円 → 5,600億円 | 6,000億円水準 7,000億円を 目指す |
| | 資本コスト | 資本コスト | 9% | 8% | 安定的に8%以下を維持 |
| | 市場評価 | 相対TSR (対競合14社) | 5位 | 相対優位 (中位以上) | |
| 非財務指標 | 健全性 | 必要資本充足率 | 220% | 170%以上 | |
| | お客さま | お客さま数 | 国内 約3,650万名 ⁽¹⁾ 海外 約3,950万名 | 国内 約3,750万名 海外 約4,500万名 — | |
| | 社外評価 | ESG総合インデックス | DJSI ⁽²⁾ アジアパシフィックIndex選定 | 国内業界トップ水準の 評価スコア | |

(参考)りそなHD・JCBとの協業

- ▶ 2026年5月18日にりそなグループ・JCB・当社の三社協業について公表
- ▶ 2026年9月下旬以降、りそなグループアプリにて、ベネフィット・ワンが提供する暮らしに役立つ優待コンテンツ(最大で国内外140万件以上)が利用可能に

金融+で、未来をプラスに。



今後のIRイベント - 予定

| | イベント | 主な登壇者 | |
|------------------------|---------|-------------------------------|---------|
| 当社主催 (~2026/10) | 7月16日 | 事業戦略説明会(第1回) ⁽¹⁾ | 事業オーナー |
| | 8月7日 | 27/3期1Q 決算電話会議 | グループCFO |
| | 10月 | Special IR Meeting with 社外取締役 | 社外取締役 |
| | 主催者 | 主な登壇者 | |
| IRカンファレンス (~2026/7) | 6月3日・4日 | JPモルガン証券 (ニューヨーク) | グループCFO |
| | 7月6日・7日 | みずほ証券 (香港) | グループCFO |

(1)27年3月期下半期に事業戦略説明会(第2回)を開催し、年度内に全ての事業オーナーが登壇する予定

グループ会社一覧・出資比率・決算期

| 国内保険事業 | | | 出資比率 | 決算期 |
|--------|----------------|--|-------|-------|
| DL | 第一生命 | | 100% | 4-3月 |
| DFL | 第一フロンティア生命 | | 100% | |
| DNL | 第一ネオ生命 | | 100% | |
| DIPT | 第一アイペット損保 | | 100% | |
| 海外保険事業 | | | | |
| PLC | プロテクティブ | [米国] Protective Life Corporation | 100% | 1-12月 |
| TAL | TAL | [豪州] TAL Daiichi Life Australia | 100% | 4-3月 |
| PNZ | パートナーズ・ライフ | [ニュージーランド] Partners Group Holdings | 100% | |
| DLVN | 第一ライフ・ベトナム | [ベトナム] Dai-ichi Life Insurance Company of Vietnam | 100% | |
| DLKH | 第一ライフ・カンボジア | [カンボジア] Daiichi Life Insurance (Cambodia) | 100% | 1-12月 |
| DLMM | 第一ライフ・ミャンマー | [ミャンマー] Daiichi Life Insurance Myanmar | 100% | |
| SUD | スター・ユニオン・第一ライフ | [インド] Star Union Dai-ichi Life Insurance Company | 47.4% | 4-3月 |
| PDL | パニン・第一ライフ | [インドネシア] PT Panin Dai-ichi Life | 40% | 1-12月 |

| 非保険事業(アセットマネジメント事業・新規事業) | | | | |
|--------------------------|--------------------------|---|-----------------------|-------|
| AMO | アセットマネジメントOne | | 49%(議決権) 30%(経済持分) | 4-3月 |
| AMO(US) | アセットマネジメントOne(USA) | [米国] Asset Management One USA | 49%(議決権) 30%(経済持分) | 1-12月 |
| VTX | バーテックス・インベストメント・ソリューションズ | | 100% | 4-3月 |
| CP | キャニオン・パートナーズ | [米国] CP New Co | 19.9% | 1-12月 |
| BO | ベネフィット・ワン | | 100% | 4-3月 |
| | キャプラ・インベストメント | [英国] Capula Investment Management | 15% | 1-12月 |
| | And Do ホールディングス | | 15.7% | 7-6月 |
| DMRE | 第一ライフ丸紅リアルエステート | | 50% | 4-3月 |
| その他 | | | | |
| DLRB | 第一ライフ・リー・バミューダ | [バミューダ] Daiichi Life Reinsurance Bermuda | 100% | 1-12月 |

本資料の問い合わせ先
株式会社第一ライフグループ
経営企画ユニット IRグループ

免責事項

本プレゼンテーション資料の作成にあたり、株式会社第一ライフグループ(以下「当社」という。)は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本プレゼンテーション資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本プレゼンテーション資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本プレゼンテーション資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。